

## 第4章 環境学習を進めるために

第3章の「目標と推進方針」に則して「成長段階に応じた環境学習」及び「さまざまな場における環境学習」を具体的に実施する場合の視点を整理し、「各主体の役割と連携」のあり方を明確化して、県内の環境学習を体系的かつ総合的に推進します。

### 1 成長段階に応じた環境学習の推進

環境問題はすべての人にかかわる問題であり、あらゆる年代の人が継続して学習を行う必要があります。特に、環境に責任と誇りをもって行動できる人を育てるためには、成長段階に応じた体系的な学習が必要であることから、生涯学習の観点に立って、就学年齢期だけでなく、幼児から高齢者までのすべての年代を対象に、各年代に応じた効果的な環境学習を推進します。

成長の段階	環境学習推進の視点
幼児期	自然とふれあい行動する 愛着をもつ 不思議さを感じる
小学校 低学年	関心をもち行動する 自然の美しさを感じる 自然の中で遊ぶ 楽しさを知る
小学校 中高学年	観察する 理解し行動する 体験する 生きものと環境の関 係を知る 自然を大切にする 生活と環境の関係を 知る 自然 に対する畏敬の念をもつ
中学校期	科学的な見方をする力、問題を発見し、解決する能力を高める 体験する 自分の考えを持つ 「人と環境」の 関係について理解 する 行動する
高等学校期	「人と環境」の関係について、総合的かつ科学的な理解を深める 参加する 環境問題の現状を地球的な視点で理解する 行動 する
成年期	行動する 長期的・総合的・国際的視点から環境問題を考察する 知識や経験を伝える 新たな知識を吸収する

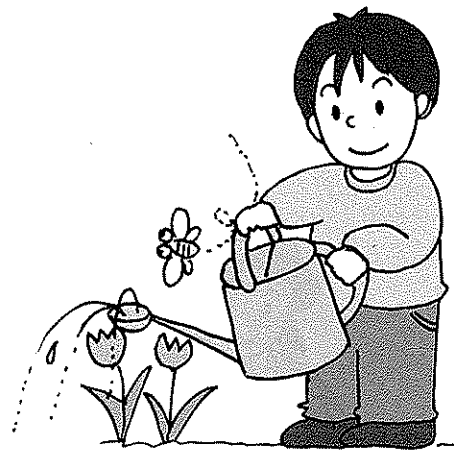
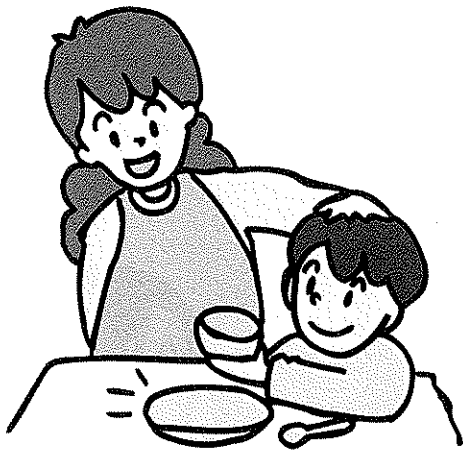
## 幼児期

幼児期における環境保全に関する意識の形成は、その後の環境意識の形成に大きな影響を与えます。幼児期には、大人が日常生活の中で環境に配慮した暮らしを教え、子どもたちがそれを習慣として身につけることが大切です。

特に、屋外において自然に親しむことは環境に対する原体験を形成することから、身近な自然や動植物などとのふれあいを通して生命や環境の尊さを体感するなど自然に親しむ機会を数多く持つことが求められます。

### 具体的な取組例

- ・水を出しっぱなしにしない、食べ物を残さないなど、基本的な生活習慣のしつけの中で、自然やものを大切にすることを身につけさせる。
- ・親子で近くの公園・野山・小川等で遊ぶなど、日常的に自然体験の機会を設ける。
- ・草木に水を与える、犬にえさを与えるなど家の手伝いを通して、生命を大切にすることを育む



## 小学校低学年

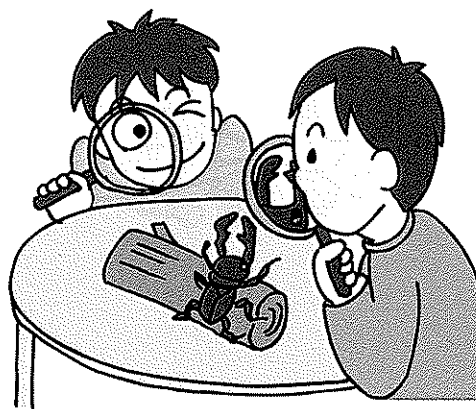
小学校低学年は、環境に対する意識の基礎づくりの段階にあります。そのため、幼児期に続き、日常生活の中で環境に配慮した暮らし方を教え、それを習慣化させていくことが大切です。

また、自然に触れ、自然の事物・現象を感受する体験活動の機会を多く持たせ、守るべき自然がどのようなものであるかを学ばせることも重要です。特に、自然を利用した遊びや動植物とのふれあい・観察など体験を中心とした環境学習を進める中で、美しい自然に対する豊かな感性や、命を大切にす

る心を育てることが求められます。

### 具体的な取組例

- ・ ゴミをポイ捨てしない、紙などを必要以上に使わない、無駄な電気は消すなど、基本的な生活習慣を身につけさせる中で、自然やものを大切にする気持ちを育てる。
- ・ 身近な山や川、公園等へ出かけ、昆虫や草木を観察したり、草花や木の葉、木の実、石などを利用した遊びを通して自然に親しみ、自然の素晴らしさや不思議さを感じる機会を設ける。
- ・ 生き物の飼育や植物の栽培を通して、それらが生命を持っていることや成長していることに気づかせ、生き物に親しみを持ち、大切にす



## 小学校中高学年

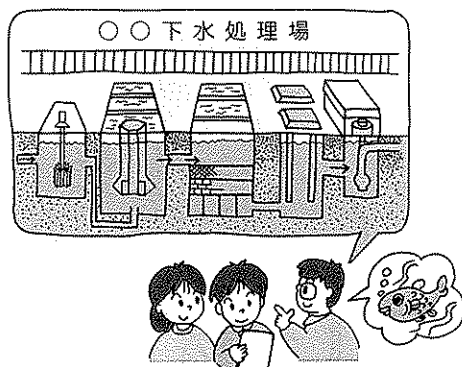
小学校中高学年は、心身の発達とともに自分に身近な生活環境からより広い範囲の環境についても関心をもって学習をおこなうことができるようになります。

この時期は、環境にかかわる実際の体験を通して、何が問題となっているかを具体的に認識できるようにすることが重要です。

また、自然体験活動を通して豊かな心を育て自然に対する畏敬の念を深めるとともに、社会体験活動などを通して自分と周りの環境とのかかわりを知り、自然や社会全体の仕組みを理解するという点に重点を置いた学習を行うことが必要です。

### 具体的な取組例

- ・自分の住んでいる地域の環境について学習したり、地域の下水処理場やゴミ処理場等を見学して自分たちの出している汚水やゴミの処理について理解を深める。
- ・自分が出したゴミをリサイクルできるように分別する、節水・節電を心がけるなど、環境に配慮した暮らし方を実践させる。
- ・山や川等の自然環境の素晴らしい中で楽しく過ごすことを通して、子どもに自然の偉大さ・素晴らしさを感じさせるとともに、自然を守る意識を育てる。
- ・地域の自治会等が主催する環境保全活動等に親子で積極的に参加し、自分たちの生活と身近な環境とのかかわりに気づかせる。



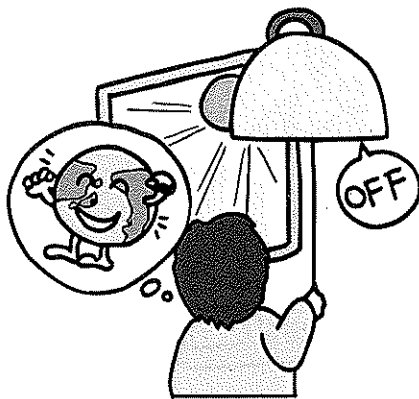
## 中学校期

中学校期になると、視野が広がり問題に対する意識が高まります。環境学習においては、自然や社会の仕組みについて理解を深め、環境問題を考えるための十分な知識を習得するとともに、環境保全やよりよい環境の創造のため、主体的に実践する態度を身につけることが重要です。

また、実際の体験を通して、環境問題を具体的に認識できるようにするとともに、世界の情報にも関心を向け、因果関係や相互関係を把握する力や、問題を発見し、解決するための能力が育成できるようにしていくことが大切です。

### 具体的な取組例

- ・日本や世界各国の学習を進める中で、日本が抱えている環境やエネルギーに関する課題を認識するとともに、それが地球規模の環境問題とつながっていることを知り、その解決に向けて積極的に行動する必要性に気づくことができるようにする。
- ・身近な大気汚染度や河川・湖沼等の水質、地域の動植物の生態等を調べる活動を通して、生態系のバランスと人間とのかかわりについて考察し、自然環境を保全することの重要性を認識させる。
- ・台所の排水をできるだけ汚さないようにする、ゴミをなるべく出さない買い方をするなど、日常生活の中で環境への負荷を減らす工夫を考え実践させる。
- ・地域で開催される環境保全活動に積極的に参加し、環境を守る意識を高める



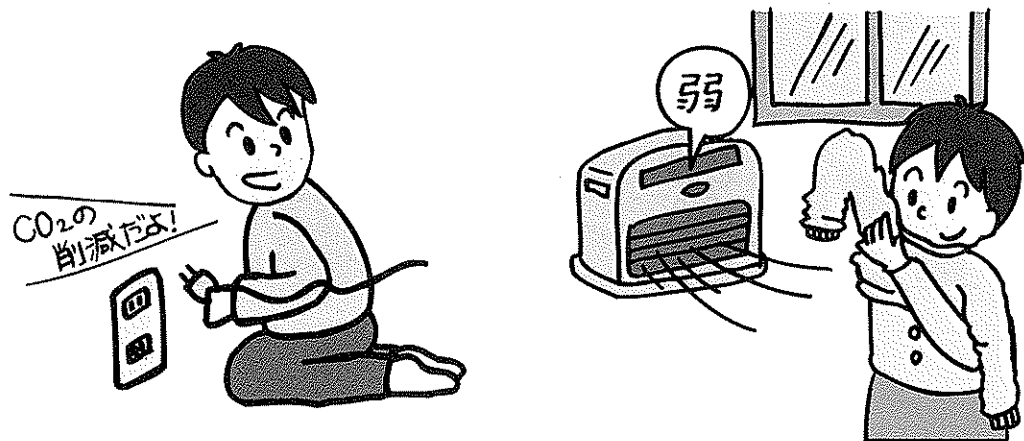
## 高等学校期

高等学校期は、これまでの学習を基礎として、さまざまなことに興味を持ち、さらに幅広い視野をもってより深く追求できるようになります。この時期においては、環境問題を理論的に学ぶとともに、現実の社会が抱えている課題にも気づき、自分の考えを持つようになることが重要です。

また、ボランティア活動への参加等を通して、他者との協働によって環境保全活動を推進する態度や知識・技能を身につけることも大切です。

### 具体的な取組例

- ・ 歴史や文化など幅広い知識を習得する過程で、「人と環境」とのかかわりについて理解を深めるとともに、環境問題に対し自分の意見を持てるようにする。
- ・ 合成物質の利便性と環境への影響や、エネルギー資源の活用とそれに伴って発生する諸問題など、身近な事例を扱いながら総合的に環境問題を考察し、環境に配慮する必要性を認識できるようにする。
- ・ 環境と暮らしの関係を考え、自ら環境への負荷が少ない行動を実践する。
- ・ 環境ボランティア活動等に積極的に参加し、多くの人と交流しながら協力して、環境保全のための活動に取り組む。



## 成 年 期

成年期は、各人の個性や経験、立場に応じ、生活全般において主体的に環境に配慮した活動を実践することが求められます。

家庭においては子ども達に環境学習の機会を与える保護者としての役割が、企業や地域社会においては環境に配慮した社会づくりに向け重要な役割を果たすことが期待されます。また、自己啓発を行って環境に対する知識をさらに深めるとともに、それを積極的に広め、伝えることが期待されます。

### 具体的な取組例

- ・ 地域や職場において、積極的に環境保全活動を実践する。
- ・ 継続して自己研さんに努め、地域の環境を保全するための伝統や文化を伝え発展させる。
- ・ 生活全般において主体的に環境に配慮した活動を実践するとともに、子どもたちに対し環境活動の指導を行う。
- ・ 豊富な経験を通して培った環境に関する知識や技能を積極的に伝える。

